

若者へのメッセージ 58

公益財団法人日本宇宙少年団理事 上垣内 茂樹

【第一回】自分の好きなことを仕事にしよう

米国とソ連（今のロシア）の宇宙開発競争の時代に育った私は、知らず知らずに宇宙開発の世界にあこがれていたようだ。ライフワークを選ぶのにいろいろと考えて悩んだが、最終的に自分の好きだった宇宙開発業界に飛び込んだ。

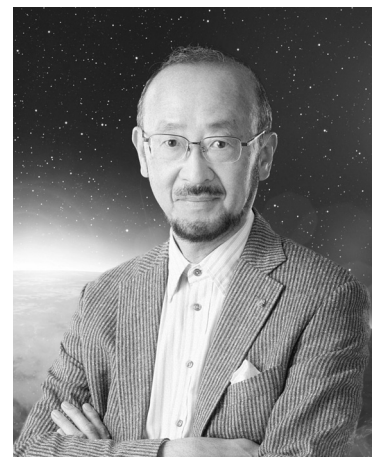
ます。

この後、米国とソ連の激しい宇宙開発競争が始まりました。米国はこの遅れを取り戻すため、1962年9月にケネディ大統領が、1970年までに米国は月面へ人類を送り無事に帰還させると演説をしたのは有名な話です。

最初に私に宇宙への興味を持たせてくれたのは、少年漫画の巻頭カラーページでした。初期の世界の宇宙開発では、米国よりソ連の方が先行しており、世界で初めて人工衛星を打ち上げたのはソ連です。スプートニクという人工衛星で1957年に打ち上げられました。米国はこれが人工衛星ではなく、核爆弾であった場合を想像してパニックとなりました。これは、スプートニクショックと呼ばれています。私は、この1957年に生まれ、宇宙開発の申し子と勝手に思っています。

米国が月へ宇宙飛行士を送るアポロ計画と、当時極秘で行われていたというソ連の月探査機のイラストが少年漫画の巻頭カラーページで紹介され、私はワクワクしながら、それらを読んでいました。読むだけでは物足りず、放課後、小学校の裏庭で、鉛筆の金属キャップにセルロ

上垣内 茂樹（かみがいち・しげき）



公益財団法人日本宇宙少年団 理事
一般財団法人公正研究推進協会 事務局長
宇宙航空研究開発機構（JAXA） 社友

1957年、広島県生まれ、1982年、東京大学大学院修士課程修了後、宇宙開発事業団（現在のJAXA）に入社。

ロケット等のエンジンの開発を担当した後、日本初のスペースシャトルの宇宙飛行士となる毛利衛氏をはじめ、向井千秋氏、土井隆雄氏の訓練を担当。日本で初めての宇宙飛行士の訓練計画を策定した。日本の宇宙飛行士がスペースシャトル搭乗中は、NASAの管制室から日本の実験の指示を出すリレーを業務めた。NASAの宇宙飛行士室より「シルバースヌーピーアワード」*を受賞。

その後、国際宇宙ステーション計画の国際調整を担当。その間、文部科学省で宇宙利用推進室長として国際宇宙ステーション計画の推進を政府においても担当した。

宇宙飛行士選抜の審査員、きぼう利用センター長として日本実験棟「きぼう」での実験のとりまとめ、広報部長、そして、宇宙飛行士の訓練、健康管理、宇宙医学研究の実施、および、「きぼう」の地上管制官活動の実施を務めた。これらの経歴から、漫画『宇宙兄弟』に登場する宇宙飛行士養成の責任者「星加正」のリアル版といわれている。

JAXA退職後は公益財団法人日本宇宙少年団にて青少年の教育や、一般の方への講演活動などを行っている。

*シルバースヌーピーアワード…スペースシャトルミッションに貢献した者をNASAの宇宙飛行士室が表彰するもので、副賞として実際に宇宙飛行をした銀製のスヌーピーバッジが贈られる。表彰者は関係者の1%未満に制限されている。

イドを詰めたロケットや、水を電気分解して作った酸素と水素を使った小さなロケットを作った飛ばしていました。残念ながら（というか今から思えば、幸運にも）数cmくらいしか飛びませんでした。

宇宙開発が大好きだった私の楽しい思い出です。とはいっても、最終的に宇宙開発をライフワークにするまで宇宙開発を一心不乱に目指したわけではありません。あるときはお医者さんに、別の時には、世界を見たいと外交官になりたいと思ったり夢はいろいろ変わりました。

東京大学に入学したとき私の将来像は漠然とエンジニアになりたいというものでした。宇宙開発も視野にはありましたが、残念ながら、私が大学を出るところまでの日本の宇宙開発は米ソと比べたら、幼稚園児程度のものでした。結果的に機械工学を専攻することになりましたが、その理由は、真っ白な図面に設計図を書くこと、それが工場で作られて目の前で動くという仕事をしたいと心の底から思ったからです。

将来性の予測は不可能

大学院を卒業するとき私は、大好きな図面を書いてものを作る仕事に就きたいと考えました。そして、私は、機械工学の粋を集めたものは自動車だと思っていました。今でもその考えは変

わっていません。たった30時間程度訓練を受けて免許を取れば、自動車の仕組みに不慣れな方でも時速100kmで、安全に走ることができ、世界中どんな環境でもほとんど故障なく動く自動車は機械工学の知恵と工夫の結晶です。そして、私は自動車会社で図面を書く仕事を求めて、いくつか訪問したのですが、大手の自動車会社に入ると、図面を書かせてもらえるのは若いうちだけで、そのうち管理職になって図面を書くという職種ではなくなるという事実が気が付きました。

また、一緒に就職活動をしている友人たちはそれぞれの企業や業界の将来性を見極めようとしていました。私もですが、多くの人は、ライフワークにするなら、その仕事を30年、40年続けたいと考えると思います。しかし、数十年間の歴史を見てみると、将来性を予測するのは不可能ということに私は気が付きました。私が大学を出る時期から数十年前の日本では、造船業、繊維産業が全盛期で優秀な技術系の学生がその業界に行きましたが、私が大学生のころにはすでにこれらの業界は斜陽になっていました。今になって見てみると、もっとも堅実な職場と思われる銀行にしても私が卒業したときにあった都市銀行や政府系の銀行で名前がそのまま残っているものは一つありません。発展的な合併

をしたところが多いとは思いますが、事程左様に、企業や業界の将来を予測することは意味がないと思います。その考えに至った私は、将来の有望性を見るのではなく、また、図面を書くという職種で仕事を選ぶのでもなく、好きな業界を選ぶことにしました。そこで、頭に浮かんだのは、宇宙開発でした。宇宙開発事業団（現在のJAXA）に入れば、どんな部署に配属されても大好きな宇宙開発の業界で仕事ができます。それに就活の終わりがちに気が付いて、私は、無我夢中で宇宙開発事業団の採用を目指しました。

当時の日本は一つも実用衛星が打ち上がっていない状態で、私の友人たちは「おまえ、そんなわけのわからない組織に入って大丈夫なのか」と心配してくれました。幸い、今では日本の宇宙開発は、欧米やロシアの宇宙開発とある程度肩を並べることができるくらいまでできており、私はとても幸せなキャリアを送ることができていると満足しております。

私のおすすめは、業界や企業のどうなるかわからない将来性を考えるよりは、好きな仕事を探すことです。好きで選んだ仕事であれば、どんな変化があっても幸せなキャリアを送れるのではないのでしょうか。